



コロナ下で教育現場にも普及・浸透したテレビ会議システム。その一つ、「Zoom(ズーム)」を使って二つの学校を結び、SDGs(持続可能な開発目標)をテーマに、その考え方や指導法を学ぶ教員研修会が9月下旬、足立区であった。

区立西新井小学校と第五中学校の両校であわせて40人ほどの先生が参加。講師の日本NIE学会理事・有馬進一さんが西新井小で講義し、その様子が第五中に中継された。

講義は座学と、当日の朝刊を読んで、SDGsの17ゴールをあしらった付箋に自らの考えを書いて関係記事にひもづけるワークショップの組みあわせ。後半には付箋の貼られた両会場の新聞をお互いモニター越しに見比べ、小学校と中学校の先生が抱く興味や関心の違いを見える化する作業

付箋の活用 先生が体験

も。意見発表では「教科書や校内のポスターにも付箋を貼って見たら」「付箋なので移動したり関連づけたりする手法を採り入れたい」などのアイデアが出た。

西新井小の今野拓洋教諭は「子どもが社会の中から課題を見いだし解決策を議論するうえで、SDGsと新聞は必要な視点やきっかけを提供してくれる。研修で活用したICT(情報通信技術)とも組み合わせて学習をデザインしていきたい」と振り返った。

◇出前授業のご相談は朝日新聞社NIE事務局(03・5540・7870)まで。

